

平成27年度 社会福祉法人べっぷ優ゆう 事業報告書

1. 法人の活動状況の総括

平成27年度は社会福祉法人による通年での運営（平成27.4.1～平成28.3.31）の年度として、業績面では堅調な伸びを示しつつも新たな事業展開に向けた準備に追われ始めた一年でもあります。

日々の運営、特に利用者支援では、今年度も大きな事故もなく、それぞれの事業ごとにつくられた支援計画に基づいて課題解決に向けた実践が行われ、総じて、仲間支援に専念できた年度でもあったかと思われまます。

（1）事業の実施概要と成果

①利用者の視点に立ったより上質なサービスを提供

一人一人に対応した、支援担当者と管理責任者との検討による個別支援計画に沿ってサービス提供を行い、特に支援で問題となった事案は職員会議で取り上げ支援内容の改善や関連する生活面でのテーマまで整理し、実践につなげている。

また、利用者の自主性を育む観点から「仲間の会」の運営（役員選挙、年間行事の計画・運営など）をサポートしてきた。

②研修機会の活用により職員集団としての支援能力の向上

相談支援事業は100人の利用者を抱えても1人の相談員の人件費すらカバーできないほどの赤字を出す福祉サービス事業です。

事業所によっては既存利用者には極力手間を省いて面談もせずに形式だけで予定を消化すると聞きます。べっぷ優ゆうの場合は、同じ利用者でもニーズや環境の変化、相談者自身の成長等を踏まえ労力を惜しまず、丁寧な面談、合意による手続きを行っています。「資質の向上と倫理意識」について考えさせられる現象です。

内部研修では、多機能事業所は「一人ひとりに寄り添った支援」を、放課後等デイでは「障害特性と対応」をテーマに輪番制による支援状況、課題提起の報告とそれに続く全員の協議による問題、課題の掘り下げなどがなされ、一定の成果はあったものと思われる。

今後、研修を切っ掛けとして日々の現場支援に生かし、自己研さんに努めることが望まれる。

③各事業所の財政基盤（収支構造）の安定化

各事業の安定化には利用度を上げる、新規の利用者を確保するといった収入面での改善が分かりやすい。

新年度に向けた新規利用者の確保は実現しなかったが、放課後等デイでの中途からの利用増、見学の申込み等地道な福祉活動が影響してなのかコンスタントに問い合わせも発生している。引き続き受け入れる環境を整えることが肝要と思われる。

今後の課題として、高騰する人件費率への対応を検討（給与水準と諸手当、人員規模と配置等）することが急務とされる。

④新たな事業展開への準備に向け、安定した運営基盤を構築

年度末には新規の事業用地取得が可能となり、2月には利用者家族とべっぷ優ゆう理事・職員で構成するグループホーム設置準備委員会の発会を見た。

準備委員会では、先行施設の視察による情報収集、課題整理も進み大分県等の補助事業申請をまじかに控え、これから計画を具体化させる段階となっている。

(2) 事業収支及び財産の状況 (一般会計)

①資金収支計算 (H27. 4. 1～H28. 3. 31)

千円

	決算	補正予算 27. 11	差異
事業活動収入	88,381	87,219	1,162
事業活動支出	80,371	82,509	△2,138
事業活動資金収支差額	8,010	4,710	3,300
施設整備等資金収支差額	0	△210	210
予備費	0	1,000	1,000
資金収支差額	8,010	3,500	4,510

②資産・負債比較 (H28. 3. 31)

千円

	当期 H28. 3	前期 H27. 3	増減
流動資産	64,688	56,669	8,020
固定資産	26,166	27,484	△1,319
資産合計	90,854	84,153	6,701
流動負債	1,837	1,828	9
固定負債	0	0	0
負債合計	1,837	1,828	9
純資産	89,017	82,325	6,691
負債、純資産合計	90,854	84,153	6,701

(3) 今後取り組むべき課題

- ①サービス提供技術の向上及び生活の質の向上
- ②職員の資質向上と事業目的の共有化
- ③財政・経営基盤の強化及び事業運営の安定化
- ④今後取り組むべきグループホームの事業検討

2. 実施事業別の活動概要

(1) 実施事業の種類及び利用実績等

①就労継続支援B型		事業所番号	4 4 1 0 2 0 0 0 6 9		
平成26年10月24日指定		定員	20名	契約数	32名
開所日数	259日			期首契約数	31名
延べ利用日数	5,584人日	日平均利用数	21.6人/日		
備考	開設 平成19.1.1 (単独指定として)				

②生活介護	事業所番号	4 4 1 0 2 0 0 0 6 9			
-------	-------	---------------------	--	--	--

平成26年10月24日指定	定員	6名	契約数	11名
開所日数	252日		期首契約数	11名
延べ利用日数	1,148人日	日平均利用数	4.6人/日	
備考	開設 平成22.7.1 (多機能の指定事業所として)			

③放課後等デイサービス	事業所番号	4450200144		
平成26年10月23日指定	定員	10名	契約数	17名
開所日数	237日		期首契約数	15名
延べ利用日数	2,144人日	日平均利用数	9.0人/日	
備考	開設 平成25.1.1			

④相談支援				
地域移行、地域定着相談支援				
平成26年10月24日県指定	事業所番号	4430200628		
特定相談支援 (障害者のサービス利用、更新等)				
平成26年10月30日市指定	事業所番号	4430200628		
障害児相談支援				
平成26年10月30日市指定	事業所番号	4470200181		

(2) 就労継続支援B型 (クッキー)

前年同様、クッキーづくりをとおして利用者自身の主体性を育て、仲間同士のコミュニケーション活性や助け合いの関係づくりを支援することを目標とした。

- ①作業をとおした主体性づくり…小集団による自主的な製造チームでの運営を目指した「任せきる日」での試みでその実現化への課題も見えつつあり、今後も継続していきたい。
- ②参加意欲を高める商品の自主開発…「大きいクッキー」「ハロウィンクッキー」「冬季物販向け新テイストのプレッツェル」といった3回のテーマで、試作⇒評価の実施、商品化の検討まで行う機会を得て、「自分が考え、作った」という喜びややりがいに結びつくことを期待する。
- ③障害特性や健康状態を踏まえた合理的配慮…2つの工房を活用し、身体機能低下による危険防止や仲間相互の関係の考慮など仲間一人一人に気配りした支援に心がけた。
また、製造作業だけではなく販売・配達やパソコンによるデータ整理など仲間が意欲をもって参加できる仕事の幅を広げ、それぞれの仲間に合わせて作業の開拓に努めた。
- ④仲間同士の関係づくり…コミュニケーションの問題でトラブルにつながることもあり、仲間と共に行う手話教室をはじめお互いの思いを理解、共感に導くスタッフの姿勢や作業所の雰囲気作りが大切となっている。

(3) 就労継続支援B型、生活介護 (紙漉き)

なかまの成長を支援!! 仲間支援ありきの紙すき業務 ~なかま同士の関わりを大切に~

を目標に自主的な利用者の動きを大切に関わってきた一年となった。その結果、随所に、なかま同士の連携や支え合う場面が見られ、今までにない連帯感が芽

生えてきたのを実感した。

一方で、やりがいのある仕事づくりでは依然として一層の工夫や新境地の開拓が求められている。より多くのなかまが関われる仕事は「紙漉き事業」での材料作り、紙作り、商品づくりとなるが紙漉き関連商品の販売額は貢献度が低く、仲間の工賃確保につながっていない現状がある。

(4) 放課後等デイサービスなかま 季節の行事

4月		8月	流しそうめん	12月	クリスマス会
5月	こいのぼり作成	9月		1月	こま作り
6月	体育館で運動	10月	ハロウィン(宝さがし)	2月	節分
7月	七夕	11月	落ち葉による作品作り	3月	フォトフレーム作成

運営面で重点的に取り組んできた内容は、以下のとおりである。

①児童への支援について

- ・要支援児童への支援について正職員間で現場の問題整理を行い、職員会で問題状況の理解や支援の改善等確認した。(隔週 1~2回)
- ・中高の児童が小学部の児童に積極的な関わりをもってくれ、子どもたちの落ち着いた雰囲気の日が増えてきた。

②運営計画(行事計画)の工夫について

- ・季節行事の他に、誕生会では司会やプレゼンターになりたいと積極性を示す児童も現れ、楽しさがすっかり定着した様子。
- ・その他に、施設内で上映の映画館、読み聞かせなど好評の行事もありできる限り多様に計画的に工夫を重ねていきたい。

③自主的な職員研修について

- ・所内研修では年度の研修テーマに沿ったレポートを発表、意識を深める取り組みを展開した。レポートの整理発表をパート職員にも担ってもらい、全員参加の意欲づけとした。

反省として、今年度も職員の体調不良、退職等により児童への対応が安定せず少なからず影響を与えてきたのではないかと危惧している。ようやく、年度末になって4名の安定した職員集団が育ってきて、次年度に向けたプラスの要因になるものと思われる。

(5) ベっぷ優ゆう相談支援センター

今年度の利用者は前期よりもさらに増え、75名(前年65名)となり、利用事業所は12、在宅3名の構成であった。

活動テーマとしては、地域で生活する障害児者及び家族の相談に応じ、各種サービスの利用援助、調整など地域生活に必要な支援を行うことを主眼としてきたが一方で利用契約には結びつかない一般相談にも多くかかわることとなった。

その活動から浮き彫りとなったさまざまな生活課題や家族関係の悩みの対応で、行政や他の事業所や相談支援専門員、自立支援協議会など地域の機関、専

門家、民間事業所等との連携を深める必要性が増してきた。

(6) 苦情、事故

- ・ 苦情受付 なし
- ・ 事故報告 なし

3. 理事会・評議員会開催状況

(1) 理事会

第1回理事会 平成 27. 5. 23 7名出席（1名書面表決）

- ・ 平成26年度事業報告について
- ・ 平成26年度決算について
- ・ 監事による監査の報告について
- ・ 理事長専決事項の報告について
- ・ その他（社会福祉法の改正の影響等について認識の共有）

第2回理事会 平成 27. 11. 29 7名出席

- ・ 平成27年度補正予算について
- ・ 新たな事業用地、施設の取得について
- ・ 別府市指導監査、大分県実地指導の結果と対応について
- ・ 理事長専決事項の報告について
- ・ その他

第3回理事会 平成 28. 3. 27 7名出席（1名書面表決）

- ・ 平成28年度事業計画について
- ・ 平成28年度予算について
- ・ 鶴見竹の内土地の取得について
- ・ 理事長専決事項の報告について
- ・ その他

(2) 評議員会

第1回評議員会 平成 27. 5. 23 12名出席（3名欠席）

- ・ 平成26年度事業報告について
- ・ 平成26年度決算について
- ・ 監事による監査の報告について
- ・ 理事長専決事項の報告について
- ・ 監事の辞任、後任者の選出について
- ・ その他（職員の処遇等厳しい事業運営の共通理解）

第2回評議員会 平成 27. 11. 29 14名出席（1名欠席）

- ・ 平成27年度補正予算について
- ・ 新たな事業用地、施設の取得について

- ・別府市指導監査、大分県実地指導の結果と対応について
- ・理事長専決事項の報告について
- ・その他

第3回評議員会 平成 28. 3. 27 14名出席（1名欠席）

- ・平成28年度事業計画について
- ・平成28年度予算について
- ・鶴見竹の内土地の取得について
- ・理事長専決事項の報告について
- ・その他

(3) 役員の異動等

- ・監事の変更 平成 27. 5. 24 小串光正氏（税理士）就任

4. 職員研修の状況

研修名称・テーマ等（主催者）		日時	参加者
(1) 事業所内研修			
1	多機能事業所職員研修	5月より毎月第一金曜 計9回	毎月輪番によるテーマ提起 12月外部講師 夢ひこうせん 阿部哲三氏
2	放課後等デイ職員研修	6月より計8回 1回60-90分	「障害特性と対応」輪番による情 報提供 別院ひばり園見学
(2) 事業所外研修			
1	民間教育研究集会 記念講演 三木裕和氏	平成27. 8. 22	田中、尾添
2	きょうされん全国大会（神戸）	平成27. 9. 8-9	田中
3	障がい児（者）施設等職員研修会 （大分県社会福祉介護研修センター）	平成27. 9. 17-18	久保 人権、虐待防止のテーマ のため11月職員研修で水平展開
4	九州地区障がい者相談支援合同研修会（大分）	平成27. 11. 5-6	出田
5	きょうされん大分支部 経営管理者研修 （佐伯）	平成27. 11. 5	田中、長谷川、永松、大津
6	東田直樹氏講演会（別府大学大分キャンパス）	平成27. 11. 7	齋藤、大海、長谷川、尾添、北野 高石
7	東部圏域児童発達支援ネットワーク研修会「発達に支援を要する子どもたちへの音楽療法」	平成28. 2. 6	尾添
8	大分県こころとからだの相談支援センター 発達障害講演会（大分）	平成28. 2. 8	大津
9	きょうされん九州ブロック大会（沖縄）	平成28. 2. 27-28	松川
(3) 総合支援法等制度関連研修			
1	大分県：サービス管理責任者研修（介護）	平成27. 8-28. 1	出田、齋藤
2	大分県：相談支援従事者初任者研修	平成27. 8-9	久保

5. 借入金

なし

6. 補助金

(1) 施設・設備整備関係

なし

(2) その他の補助金

- ・大分県共同募金会 ￥50,500 (H27.12.16受領)

7. 登記事項

- ・平成27.6.4 資産総額の変更(平成27年3月31日現在)

8. 監査

(1) 法人監事による監査

- ・平成27.5.18 事業報告書、決算、現金出納帳等現金扱いの経理状況
- ・平成28.5.16 事業報告書、決算、現金出納帳等現金扱いの経理状況

(2) 大分県及び別府市等関係行政による監査

- ・大分県 平成27年7月15日(水)午前中 障害児通所支援事業所の実地指導
平成27年8月11日付 実地指導結果通知 回答の必要のない指導事項
14項目
*上記指導項目のうち、10衛生管理等について(感染症又は食中毒対策として保健所等に助言、指導を求め、発生及びまん延の防止対策マニュアルを作成し、従業者に周知すること。)を除き残余の13項目については随時是正及び実施を行っている。
- ・別府市 平成27年9月18日(金)1日 社会福祉法人の指導監査
平成27年10月16日付 指導監査結果通知 回答を要する指導事項4項目、
回答の必要のない指導事項3項目
*上記の指導は、給与・工賃の支払や現金入金を受入れ等現金の扱いに係るもので、回答の必要のない指導事項も含め規定等の改定、会計システムの変更により対応した。尚、文書による回答は平成27年11月13日(金)までに提出済である。